

**研究主題** 学校教育目標実現のための教育活動のあり方について  
～資質・能力育成のためのカリキュラム・マネジメントを通して～

# 1 学校教育目標の捉え直し



## 2 研究の流れ

### 1年次の研究

#### (1) 付けたい資質・能力の整理

- 協働のためのコミュニケーションの力
- 自己理解と自己肯定の力
- 知っていること、できることを使う力 など



#### (2) 教育課程の最適化の取組

- ①生活科・総合的な学習の時間を中心とした、他教科等との関連を図るカリキュラムづくり
- ②2学期制の特色を生かした、横断的な指導を図るカリキュラムづくり
- ③日課・行事等の精選を通した、学びやすい学習環境づくり
- ④他教科等との関連を図る、開かれた道徳のカリキュラムづくり

### 2年次の研究

#### (3) 「生活科・総合的な学習の時間を中心とした、他教科等との関連を図るカリキュラムづくり」の改善

- ①縦と横のつながりを意識したカリキュラムの見直し
- ②他教科での学びや地域の人材、資源を活用した学習活動の実践
- ③評価方法の改善

カリキュラム・マネジメントの中心となる「生活科・総合的な学習の時間」の改善に取り組みました。

#### (4) その他のマネジメント

- ①年間行事予定の見直し
- ②教科化に伴うカリキュラムの再編成
- ③学校評価の再検討



### 3 本年度の研究の具体

「生活科・総合的な学習の時間を中心とした、他教科等との関連を図るカリキュラムづくり」の改善

#### Step1

①縦と横のつながりを意識したカリキュラムの見直し

#### 改善ポイント

- 1～6年生までの『縦のつながり』
- 生活科・総合的な学習の時間と他教科との『横のつながり』

#### Step2

②他教科での学びや地域の人材、資源を活用した学習活動の実践

(例) 第5学年の総合的な学習の時間「人生の大先輩から学ぼう」より

#### 地域の人材、資源の活用

#### 他教科での学びの活用



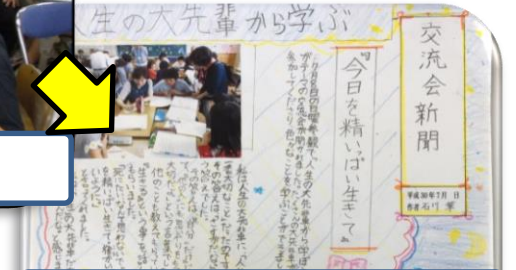
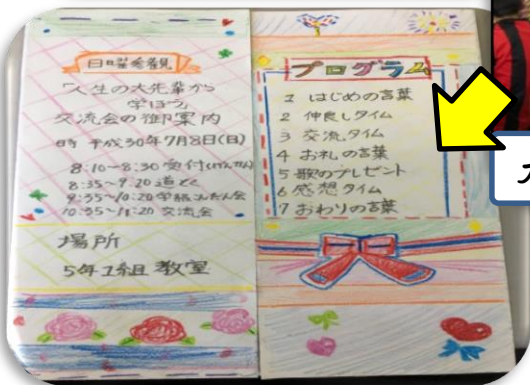
中央公民館の方との出会い



家庭科での学びを生かしたおもてなし用の麦茶づくり



大先輩との交流会(1回目)



国語科の新聞の学習を生かした交流会新聞の作成

#### Step3

③評価方法の改善

- ・授業ごとの評価
- ・単元ごとの評価

5年 組 名前( )

大先輩と交流して学ぼうと「交流会」(10F)

①

②

③

④

⑤

<次の見直し>次は、どのような活動がすばらしいと思いますか。

<振り返り>

自分が知りたいことを大先輩から学ぶことができた。

1. できた。 2. だいたいできた。 3. 出来なかった。 4. できなかった。

ひばりふり読みシート(子ども用)

名前( )

テーマ 人生の大先輩に学ぼう

①

②

③

④

⑤

ひばりふり読みシートがA組のシート、ふり読みシートです。

ひばりふり読みシートは、ひばりふり読みシートを参考に、自分たちが学んだことを書いてください。

## (4) その他のマネジメント

### ①年間行事予定の見直し

7月と12月を保護者や地域とのふれ合いの月として重点的に行事を組んでいる。また、保護者、ひあしっ子育成事業委員会等の地域との意見交換を生かした行事の実施・振り返りを行っている。

### ②道徳の教科化に伴うカリキュラムの再編成

年間行事予定をもとに、効果的な指導時期を考えてカリキュラムを作成した。カリキュラムに「他教科との関連」を明記した。

### ③学校評価の再検討

「めざす子ども像」および「付けたい資質・能力」を評価項目として改訂を行った。アンケートを通して、本校がめざす教育を保護者や地域と共有するとともに、評価結果は、研究のPDCAサイクルを充実させるための資料として活用していく。

## 4 研究の成果と課題

### 成果

- カリマネの研究を通して、本校で付けたい資質・能力が明確になり、職員一人ひとりが学校教育目標を意識した授業づくりに取り組めるようになった。
- 開かれた教育課程の実現に向けて、付けたい資質・能力という視点を学校評価の項目に取り入れた。
- 授業改善に向けたPDCAサイクルが確立した。
- 教科間をつなぐ判断規準ができた。

### 課題

- 学校教育目標の実現を目指す中で、子どもたちにどれくらい力が付いているのかの評価方法の確立と、時間の確保。

カリキュラム・マネジメントは決して特別な教育手法ではありません。学校全体で付けたい資質や能力を明確にし、全ての教員がその目的内容を共有し、各実践の中で意図的に育成を図っていく営みです。その日々の営みが、必然的に授業改善の意識へとつながるのです。